

役場職員に聞く

vol.4

新たな制度導入で町の経済に活気を

産業経済課商工労働観光グループ

取材：地域おこし協力隊 木下知佳

安平町が行っている事業や政策など、町民の皆さんが利用することの多い場所や取り組みについてご紹介します。今回は商業・観光を主に担当する産業経済課商工労働観光グループの横谷さんに話を聞きました。



こちらに聞きました

横谷 健さん

幼少期より早来で育ち、現在も早来在住。平成17年4月に旧早来町役場最後の採用職員として就職。平成26年5月にまちづくり推進課に配属、平成30年に機構改革で産業経済課商工労働観光グループ所属。

道の駅、キャンプ場から町内に活気を

商工労働観光グループでは、商店街の活性化に関する事業、雇用や消費者トラブルなどの対応、特産品やうまかまつりなどの観光に関するイベントの企画を主にしています。

今、注力しているのが観光客の町内回遊です。道の駅やキャンプ場への来場者に町内を回ってもらうよう進められている取り組みがあります。

【安平町 観光客入込客数※の変化】

平成29年度	平成30年度	令和元年度
382,866人	382,091人	1,228,603人

※町内を訪れた観光客の延べ数のこと。

補足) 道の駅あびらD51ステーションは平成31年4月19日オープン。令和2年7月3日に来場者100万人達成。

新型コロナウイルスによる影響と町の支援

まずは鉄道ファンの回遊を狙った「SLカード」の発行。今年の夏以降、飲食店利用で配布を受けられる予定です。キャンプ場利用者向けには、食材等の販売店舗を紹介し、利用促進に繋げるWE Bページを来年度開設します。そして早来地区の空き地にトレーラーハウスを設置して、出店を検討している方にも期限付きで提供する「チャレンジショップ事業」を計画。商店街の活性化が狙いです。これらの取り組みをきっかけに、まずは商店や飲食店を知ってもらい、結果として町内回遊や継続利用に繋がってほしいですね。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、例年2日間ですら人も来場者が訪れる町最大のイベント「うまかまつり」が中



「例年、道内外のイベントで特産品を販売するブース等を行っていますが中止となり、町をPRする機会が減少しました」

止となったことで、多方面に大きな影響を及ぼしました。来年度は事態が落ち着き、無事開催できることを願っています。

事業者への支援策として、町では「新型コロナウイルスに係る安平町経済対策飲食事業者等支援金」を対象となる一部の飲食店に道の支給額に上乗せして給付、「新型コロナウイルスに係る安平町経済対策商工業者等支援金」を町内の全事業者に給付しました。今後、年末年始の外出制限で影響を受けた飲食店事業者、宿泊事業者への給付を検討しています。

新しいポイント制度「ポイントあびら」とは

ハートスタンプ、すずらんシールと地区によって異なるポイント制度がありました。

6月1日(火)から始まる新しいポイント制度では、その2つを統合し、両地区共通でポイントの付与や利用が可能となり、より便利に。300円で1ポイント付与となり、ポイントカードはスマートフォン



満貼のすずらんシール台紙、ハートスタンプカードは1枚500円のお金券として3月末まで参加店で使用可能。使用期限が迫っているので、早めの利用をお願いします。

フォンやICカードを使うものへ変わる予定です。

また、今回から行政ポイントが加わります。対象となるのは町が実施する検診(健診)や教室の受講で1回につき50ポイントの付与などです。貯まったポイントは参加店で1ポイント1100ポイントごとの使用となりますのでご注意ください。

新しい制度でポイントカードの利便性を高めることにより、町内での消費拡大や商店の利用が促されることで、まち全体の活性化へと結びついていくと思うんです。これからも町民の皆さんに住みやすいまちだと感じてもらえるよう、様々な事業に取り組みます。